

**研究テーマ**

『自分の考えを表現し、主体的に学び合う児童の育成』をめざして

学校長 有村 恵

早いもので、今年も残すところあと一月となりました。朝夕は寒さも増し冬の始まりを肌身で感じているところです。いよいよ師走。何かと気ぜわしくなる頃です。

さて、去る11月14日（火）に本校で研究発表会を開催しました。市内外から55名の教員が本校に来校してくださいました。これまで、令和4年度・5年度の2年間、鹿児島市教育委員会の研究協力校として実践を重ねてきたことの一端を授業を通して見て頂きました。

研究としては、教科の学習内容をICTを活用することで、より効果的に45分の授業の中で時間を生み出し、そして生み出された時間でさらに考えを深めたり、広げたりするためにどのような活用法があるかということについて実践研究を進めて参りました。加えて、タブレットを活用しながら、自分自身の学びや考えを他の子供たちに伝えたり、考えたことを整理するためのツールを使いながら深めたりすることでした。

このようにこれまでノートを使って学習を進めていたことに加えて、タブレットも使いながら学習を進めています。つまりタブレットも学習するための道具の一つになったことになります。

本校では、タブレットを学習道具の一つに加えることで、子供たちが変わってきました。まず一つ目として、自分で考えたことをタブレット上にまとめることで、それを発表に使うことができるということです。これまでは、ノートに自分の考えをまず書き、それを発表ボードにまとめ直して発表するというパターンでした。これがタブレットを活用することで、大幅に時間が短縮できます。次に二つ目に、学習したことが学びの足跡として残るといことです。自分以外の学級の子供たちの考えたことをタブレットに残しておくことができますので、いつでも参考にすることができます。さらに、教師が黒板に書いたものも写真に撮って残しておくことができます。（動画の保存も可能です。）これらを活用することで、いつでも考えに行き詰まったら参考にすることができるのです。三つ目は、自分の考えを効果的に分かりやすく整理することができます。考えていることを整理するツール（シンキングツールという）を使うと、自分の頭の中の思考を整理し、同時に可視化することが可能となります。

このような成果の一端からしても、より考える時間を生み出すことができ、これまで以上に自分自身で主体的に学習を進めていくことができるようになりました。これからの学習は、「主体的に、自分で考える」「深く考える」「考えてことを分かりやすく表現する」こと等が求められています。そのためには普段の学習の中でこのような力を身につけていくように進めていかなければなりません。

タブレットを使った学習は、全国で3年前から本格的に導入が進められました。本校でもこの導入を積極的に捉えて、まさに子供たちと共に学びを深めてきたところです。そのような過程を通す中で、本校の子供たちは力をつけてきました。大いに成果が上がってきたと思っています。

これからもこのことを本校の財産として定着させていきたく思っています。各家庭でも子供たちがタブレットを使ったドリル学習を課題等で取り組んでいる姿を見かけましたら声かけなど宜しくお願いします。



南日本新聞「ひろば（若い目）」に投稿しています！

「あきまつり たのしみだな」

一年 やました こじろう

ぼくは、さかなつりチームです。でっかいさかながいます。つりざおは三ぼんありますので、三にんできてます。たまに、はずれがあります。つらないようにきをつけてください。ぼくのおきにいりのさかなは、さめです。プレゼントは、ゆびわとまつぼっくりツリーとメダルです。

にほんぎるとぼくの犬

二年 さの こうしろう

国語で「どうぶつ園のじゅうい」を学ぼうしました。じゅういさんは一日にたくさんのごきごきをしていました。どうぶつ園の中を見回って、どうぶつのはなをのちりようをしていました。そのほかに、日記を書いたり、どうぶつ園を出る前にはおふろに入ったりにしていました。じゅういさんのしごとは、どうぶつが元気にくらせるようにするためです。

このお話を読んで、にほんぎるは、にがいあじが大きいというこをはじめて知りました。だからくすりをこなにして、はちみつにまぜるくふうをしてのませるので、じゅういさんはすこいなと思えました。にほんぎるはぼくがかつている犬とにいます。ぼくの犬もパンに、くすりをはさまないとくすりをめないのです。

じゅういさんのしごとは、どうぶつが元気にくらせるようにたくさんくふうをしてることを知って、すこいなと思えました。そしてにほんぎるとぼくの犬がにていることに気がついて、とてもおもしろかったです。

おいしゃさんのしごとのくふう

二年 谷口 みゆ

国語で学ぼうした「どうぶつ園のじゅうい」ではじめてしたことがあります。まず「じゅうい」というのは、どうぶつのおいしゃさんということですよ。それから、じゅういさんはしごとがおわつたらかえるまえにおふろに入るそうです。じゅういさんのしごとの中で一ばんすこいなと思つたことは、ワラビーのはぐきのちりようです。ワラビーがあばれないように三人のしぐいんさんにおさえてもらって、ワラビーがいたくないように、くふうをして早くちりようをおわらせるからです。

わたしは、はいしゃがにがてです。でもテレビを見ながらちりようをしてもらっています。だから、テレビを見ながらちりようすることもはいしゃさんがくふうをしているのだと思えました。じゅういさんもはいしゃさんも、わたしたちが元気にすこせるようにいろいろくふうをしてしごとをしていることがわかりました。

わたしはじゅういさんのしごとをもっと知りたいと思えました。

南日本新聞 ひろば（若い目）

南日本新聞のひろば（若い目）に、これまで若い目に投稿した1～3年生の作品を掲載しています。これからも素敵な作品を投稿していきたいと思ひます。

家族のあたたかさとうの気持ち

三年 大丸 あらん

国語の学習で、「ちいちゃんのかげおくり」を学習しました。ぼくは、「ちいちゃんのかげおくり」はあたたかく、悲しい物語だと感じました。

さいしょの一場面で、家族みんなでかけおくりをするところがあたたかかと思ひました。一場面がいは、せんそうの様子が出てくるけれど、一場面だけは家族でかけおくりをしたり、先祖のはかまいりに行つたりして、ちいちゃんの家族のあたたかさを感じました。

また、この物語を読んで、悲しいとも思ひました。ぼくは今こうやってふつうにくらしているけれど、いつかこの生活は無理になるんじゃないかとふあんになりました。ご飯を食べたり、運動したり、学校に行つたり、勉強したり、友だちと話したりすることは当たり前じゃない時代があつたことを知りました。けれども、こうやってくらしているのは、先祖やひいじいちゃん、ひいばあちゃんたちが、がんばってくれていたからかなあと思ひました。これからも、先祖に感じようと思ひました。

吉田小フォト（11月） 「研究公開」

